(目勺) 中小企業支援法 昭和三十八年法律第百四十七号

- 第一条 この法律は、国、都道府県等及び独立行政法人中小企業基盤整備機構が行う中小企業支援第一条 この法律は、国、都道府県等及び独立行政法人中小企業の経営資源の確保を支援する事業に関する情報の提供等を行う者の認定の録の制度及び中小企業の経営資源の確保を支援する事業に関する情報の提供等を行う者の認定の録の制度及び中小企業の経営資源の確保を支援する事業を計画的かつ効率的に推進するとともに、中小企業の経営の診断等の業務に従事する者の登第一条 この法律は、国、都道府県等及び独立行政法人中小企業基盤整備機構が行う中小企業支援
- 会社及び個人であつて、卸売業(第三号の政令で定める業種を除く。)に属する事業を主たる一つで、関立というでは出資の総額が一億円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が百人以下の会社及び個人であつて、製造業、建設業、運輸業その他の業種(次号から第二号の三までに一つ会社及び個人であつて、製造業、建設業、運輸業その他の業種(次号から第二号の三までにの会社及び個人であつて、製造業、建設業、運輸業その他の業種(次号から第二号の三までにの会社及び個人であつて、製造業、建設業、運輸業その他の業種(次号から第二号の三までにの会社及び個人であつて、製造業、建設業、運輸業その他の業種(次号から第二号の三までにで表)の法律において「中小企業者」とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。全社及び個人であつて、卸売業の経営資源の確保を支援し、もつて中小企業の振興に寄与することを目的とする。
- 業を主たる事業として営むもの 以下の会社及び個人であつて、サービス業(第三号の政令で定める業種を除く。)に属する事以下の会社及び個人であつて、サービス業(第三号の政令で定める業種を除く。)に属する事 二の二 資本金の額又は出資の総額が五千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が百人事業として営むもの
- 主たる事業として営むもの人以下の会社及び個人であつて、小売業(次号の政令で定める業種を除く。)に属する事業を人以下の会社及び個人であつて、小売業(次号の政令で定める業種を除く。)に属する事業を二の三 資本金の額又は出資の総額が五千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が五十二の三 資本金の額又は出資の総額が五千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が五十二
- る業種に属する事業を主たる事業として営むものる従業員の数がその業種ごとに政令で定める数以下の会社及び個人であつて、その政令で定める 製以下の会社及び個人であつて、その政令で定める金額以下の会社並びに常時使用す

- 条第四項に規定する経営資源をいう。
 2 この法律において「経営資源」とは、中小企業基本法(昭和三十八年法律第百五十四号)第1

(中小企業支援計画)

- 一 中小企業者の依頼に応じて、その経営方法に関し、経営の診断又は経営に関する助言を行うが行うもの(以下「中小企業支援事業」という。)の実施に関する計画を定めるものとする。国、都道府県(政令で指定する市を含む。以下同じ。)及び独立行政法人中小企業基盤整備機構2第三条 経済産業大臣は、毎年、中小企業の経営資源の確保を支援する次に掲げる事業であつて、2
- 行う事業 一中小企業者の依頼に応じて、技術に関する助言を行う事業又はそのために必要な試験研究を一 中小企業者の依頼に応じて、技術に関する助言を行う事業又はそのために必要な試験研究を
- 経営若しくは技術に関する助言を担当する者をいう。以下同じ。)を養成し、又は中小企業支に規定する指定法人が行う同項に規定する特定支援事業を含む。)において、経営の診断又は四 中小企業支援担当者(国又は都道府県が行う第一号又は第二号に掲げる事業(第七条第一項二 中小企業の経営方法又は技術に関し、中小企業者又はその従業員に対して研修を行う事業
- 車する事業 五 前各号に掲げるもののほか、中小企業の経営の診断又は経営若しくは技術に関する助言に関

援担当者に対して研修を行う事業

- めるものとする。見を聴くほか、都道府県知事(同項の政令で指定する市の市長を含む。以下同じ。)の意見を求見を聴くほか、都道府県知事(同項の政令で指定する市の市長を含む。以下同じ。)の意見を求る経済産業大臣は、第一項の計画を定めるに当たつては、あらかじめ、中小企業政策審議会の意
- もに、その要旨を公表しなければならない。経済産業大臣は、第一項の計画を定めたときは、速やかにこれを都道府県知事に通知するとと
- れを定めたときは、経済産業大臣に届け出るものとする。 き、当該都道府県が行う中小企業支援事業の実施に関する計画を定めるよう努めるとともに、こ第四条 都道府県知事は、前条第四項の規定による通知を受けたときは、同条第一項の計画に基づ
- 事業が行われるように配慮しなければならない。中小企業の経営方法又は技術の状況その他中小企業の発展の状況に応じて、適切に中小企業支援中小企業の経営方法又は技術の状況その他中小企業の発展の状況に応じて、適切に中小企業者の数、他の民間事業者との協力及び役割分担の下に、当該都道府県の区域内における中小企業に関する団体その2 都道府県知事は、前項の計画を定めるに当たつては、地域における中小企業に関する団体その

(経済産業大臣の助言)

第五条 経済産業大臣は、この法律の目的を達成するため必要があると認めるときは、都道府県に第五条 経済産業大臣は、この法律の目的を達成するため必要があると認めるときは、都道府県に

(基準の作成)

(指定) 事項について、中小企業支援事業の実施に関する基準を定めるものとする。 ・ 事項について、묟済産業省令で、経営の診断又は経営若しくは技術に関する助言の方法その他の第六条 経済産業大臣は、中小企業支援事業の効率的な実施に資するため、中小企業政策審議会の

- 特定支援事業を行わせることができる。 特定支援事業を行わせることができる。 おっぱん いて「指定法人」という。) に、当該都道府県が行う中小企業支援事業のうち第七条 都道府県知事は、次の各号に適合する者を、その申請により、当該都道府県に一を限つて
- 申請者が一般社団法人又は一般財団法人であること。
- ..。 ... 申請者が当該特定支援事業を適正かつ確実に実施することができると認められる者であるこ
- 前項の特定支援事業とは、次に掲げる事業をいう。
- . | 究及び情報の提供(以下この項において「経営診断等」という。)を行う事業 中小企業者が行う電子計算機を利用して行う事業活動に関する経営の診断、助言、調査、研
- APTう事業 二 中小企業者の経営に必要な資金の株式又は社債による調達の円滑な実施に資する経営診断等
- 断等を行う事業製品若しくは役務の開発、生産、販売若しくは役務の提供に利用する事業活動に関する経営診製品若しくは役務の開発、生産、販売若しくは役務の提供に利用する事業活動に関する経営診営中小企業者が技術革新の進展に即応した高度な産業技術の開発を行い、又は当該産業技術を
- る事業活動に関する経営診断等を行う事業(平成三年法律第四十八号)第三条第一項に規定する資源の有効な利用をいう。)の促進に資す、「中成三年法律第四十八号)第三条第一項に規定する資源の有効な利用の促進に関する法律材料及び容器の使用の合理化並びに資源の有効な利用(資源の有効な利用の促進に関する法律での法律(昭和六十三年法律第五十三号)第二条第二項に規定する特定物質等をいう。)、包装する法律(昭和六十三年法律第五十三号)第二条第二項に規定する特定物質等をいう。)、包装する法律(昭和六十三年法律第五十三号)第二条第二項に規定する特定物質等の規制等によるオゾン層の保護に関

び経験を必要とするため当該都道府県が自ら行うことが困難な経営診断等を行う事業 前各号に掲げるもののほか、中小企業者の経営方法又は技術に関し、高度の専門的な知識及

(指定法人の義務等)

画があるときは当該計画に基づいて、かつ、第六条の基準に従い、適正かつ確実に実施しなけれ第八条 指定法人は、当該特定支援事業を、第四条第一項の規定により都道府県知事が届け出た計 ばならない

第九条 削除 関する命令、 都道府県知事は、指定法人が前項の規定を遵守していないと認めるときは、当該事業の改善に 前条第一項の指定の取消しその他必要な措置をとることができる。

第十条 国は、 場合において、都道府県が当該届出に係る計画に基づいて中小企業支援事業を行うときは、都道 (中小企業の経営診断の業務に従事する者の登録) 費の一部を、当該都道府県に対し、予算の範囲内において補助することができる。 人に行わせる特定支援事業については当該指定法人に対しその事業につき都道府県が補助する経 府県が自ら行う事業についてはその経費の一部を、都道府県が第七条第一項の規定により指定法 第四条第一項の規定による届出があつた計画が第三条第一項の計画に適合している 2

第十一条 経済産業大臣は、中小企業者がその経営資源に関し適切な経営の診断及び経営に関する の経営診断の業務に従事する者であつて次の各号のいずれかに該当するものに関する事項を登録助言(以下単に「経営診断」という。)を受ける機会を確保するため、登録簿を備え、中小企業

次条第一項の試験に合格し、かつ、経済産業省令で定める実務の経験その他の条件に適合す

前項の規定により登録すべき事項及びその登録の手続は、経済産業省令で定める。 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると認められる者で、経済産業省令で定めるもの

第十二条 経済産業大臣は、中小企業の経営診断の業務に従事する者の資質の向上を図るため、 小企業の経営診断に関する必要な知識についての試験を行う。 (中小企業の経営診断の業務に従事する者に係る試験) 中

2 関」という。)に、前項の試験の実施に関する事務(以下「試験事務」という。)を行わせること ができる。 経済産業大臣は、経済産業省令で定めるところにより、一般社団法人又は一般財団法人であつ 次の各号のいずれにも適合していると認めるものとしてその指定する者(以下「指定試験機 4

一 前号の試験事務の実施に関する計画の適正かつ確実な実施に必要な経理的及び技術的な基礎が、試験事務の適正かつ確実な実施のために適切なものであること。 職員、設備、試験事務の実施の方法その他の事項についての試験事務の実施に関する計画

密を漏らしてはならない。 指定試験機関の役員若しくは職員又はこれらの職にあつた者は、試験事務に関して知り得た秘 を有するものであること。

試験事務に従事する指定試験機関の役員及び職員は、刑法(明治四十年法律第四十五号)その

5 - 第一項の試験を受けようとする者は、実費を勘案して政令で定める額の受験手数料を納付しな他の罰則の適用については、法令により公務に従事する職員とみなす。 ればならない。

6 ものについては当該指定試験機関の収入とする。 ついては国庫の、指定試験機関がその試験事務を行う同項の試験を受けようとする者の納付する前項の受験手数料は、経済産業大臣が行う第一項の試験を受けようとする者の納付するものに

定を取り消さなければならない 経済産業大臣は、指定試験機関が一般社団法人又は一般財団法人でなくなつたときは、 その指

経済産業大臣は、指定試験機関が次の各号のいずれかに該当するときは、その指定を取

り消

又は期間を定めて試験事務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる

不正な手段により第二項の規定による指定を受けたとき。 第二項各号の要件を満たさなくなつたと認められるとき。

9 令で定める。 前各項に定めるもののほか、第一項の試験及び指定試験機関に関し必要な事項は、 経済産業省

(認定情報提供機関

第十三条 経済産業大臣は、経済産業省令で定めるところにより、次項に規定する業務 済産業大臣が定める指針に適合すると認められるものを、その申請により、自らの事業として中業基本法第二条第五項に規定する小規模企業者に対する配慮に関する事項を含む。)について経に情報提供業務の実施に当たつて配慮すべき事項(当該情報提供業務の実施に当たつての中小企 報提供業務」という。)を行う者であつて、情報提供業務の内容及び実施体制に関する事項並 小企業に有用な情報を適切に提供することができる者として認定することができる。 。 以 下

前項の認定を受けた者(以下「認定情報提供機関」という。)は、次の業務を行うものとする。 る方法により、中小企業者の依頼に応じて提供すること。 次に掲げる情報を収集して整理し、インターネットの利用その他の情報通信の技術を利用す

の状況に関するもの 中小企業支援事業その他の中小企業の経営資源の確保を支援する事業の内容及びその実施

口 中小企業の経営診断の業務に従事する者の当該業務の内容及びその実施の状況に関する

立行政法人通則法(平成十一年法律第百三号)第二条第一項に規定する独立行政法人をい う。) その他の者の当該協力の内容及びその実施の状況に関するもの 中小企業の事業活動の実施に協力する事業者、大学その他の研究機関、独立行政法人(独

前号に掲げる業務に関し、中小企業者の依頼に応じて助言を行うこと。

3 記載した申請書を経済産業大臣に提出しなければならない。 第一項の認定を受けようとする者は、経済産業省令で定めるところにより、 次に掲げる事項を

氏名又は名称及び住所並びに法人にあつては、その代表者の氏名

事務所の所在地

情報提供業務に関する次に掲げる事項

情報提供業務の実施体制(情報提供業務に係る情報の管理の方法を含む。)

イ及び口に掲げるもののほか、経済産業省令で定める事項

うとするときはあらかじめ、その旨を経済産業大臣に届け出なければならない。 うとするときはあっいこり、こうで、それで心でいる。

第十四条 経済産業大臣は、認定情報提供機関の情報提供業務の運営に関し改善が必要であると認 (改善命令) その改善に必要な措置を講ずべきことを命ずること

第十五条 経済産業大臣は、認定情報提供機関が前条の規定による命令に違反したときは、 ができる。 めるときは、その認定情報提供機関に対し、 (認定の取消し) その認

第十六条 第十三条第一項の規定の認定を受けた一般社団法人又は一般財団法人(一般社団法人に 三条第一項又は第三条の二第一項に規定する債務の保証を受けたものについては、当該認定一般提供業務の実施に必要な資金に係る中小企業信用保険法(昭和二十五年法律第二百六十四号)第されているものに限る。以下この条において「認定一般社団法人等」という。)であつて、情報 法人にあつてはその設立に際して拠出された財産の価額の二分の一以上が中小企業者により拠出 あつてはその社員総会における議決権の二分の一以上を中小企業者が有しているもの、一般財団

(中小企業信用保険法の特例) 定を取り消すことができる。

2

8

金の借入れ」とする。 定する認定一般社団法人等が行う同法第十三条第一項に規定する情報提供業務の実施に必要な資 規定の適用については、これらの規定中「借入れ」とあるのは、「中小企業支援法第十六条に規 ら第八条までの規定を適用する。この場合において、同法第三条第一項及び第三条の二第一項の 社団法人等を同法第二条第一項の中小企業者とみなして、同法第三条、第三条の二及び第四条か

(独立行政法人情報処理推進機構の行う認定情報提供機関協力業務)

第十七条 独立行政法人情報処理推進機構は、認定情報提供機関の依頼に応じて、 る専門家の派遣その他情報提供業務の運営に関し必要な協力の業務を行う。 情報処理に関す

(独立行政法人中小企業基盤整備機構の行う認定情報提供機関協力業務)

第十八条 独立行政法人中小企業基盤整備機構は、認定情報提供機関の依頼に応じて、その行う中 小企業支援事業に関する情報の提供その他情報提供業務の運営に関し必要な協力の業務を行う。 (報告及び検査)

定試験機関に対し、試験事務の状況に関し必要な報告を求め、又はその職員に、指定試験機関の7十九条 経済産業大臣は、試験事務の適正な実施を確保するため必要があると認めるときは、指 事務所に立ち入り、試験事務の状況若しくは設備、帳簿、書類その他の物件を検査させることが

経済産業大臣は、 認定情報提供機関に対し、 情報提供業務の実施状況について必要な報告を求

3 あつたときは、これを提示しなければならない。 めることができる。 第一項の規定により立入検査を行う職員は、その身分を示す証明書を携帯し、 関係者の請求が

4 第一項の規定による権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

第二十一条 第二十条 第十二条第三項の規定に違反した者は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処す 第十二条第八項の規定による試験事務の停止の命令に違反したときは、その違反行為

をした指定試験機関の役員又は職員は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。 による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した場合には、 第十九条第一項の規定による報告をせず、 若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定 その違反行為をした指定試験機関の役員

|||十三条 ||第十九条第二項の規定による報告をせず、又は職員は、三十万円以下の罰金に処する。 の罰金に処する。 又は虚偽の報告をした者は、三十万円以下

2 を科する。 に関し、前項の違反行為をしたときは、 に関し、前項の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して同項の刑法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務

則

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する

(昭和四二年七月一三日法律第五六号) 抄

(施行期日)

条までの規定は、公布の日から起算して三月をこえない範囲内において政令で定める日から施行第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第六条及び附則第十三条から第三十一

(中小企業指導法の一部改正に伴う経過規定)

第十七条 前条の規定の施行前にした改正前の中小企業指導法の規定に違反する行為に対する罰則 の適用については、なお従前の例による。

昭和四八年一〇月一五日法律第一一五号)

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から施行する。

(昭和五五年五月二〇日法律第五三号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、附則第十六条から第三十六条までの規 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(昭和五五年五月三一日法律第七二号) 抄

(施行期日)

この法律は、公布の日から施行する。 (昭和六一年五月一六日法律第五〇号)

抄

(施行期日)

附 則 (平成一一年三月三一日法律第一八号)

抄

第一条 この法律は、公布の日から施行する

(施行期日)

第一条 この法律は、 公布の日から起算して六月を超えない範囲内にお いて政令で定める日

附 則 (平成一一年三月三一日法律第一九号) 抄

行する。

(施行期日)

第一条 この法律は、平成十一年七月一日から施行する。ただし、 条、第十二条及び第五十九条の規定は、公布の日から施行する。 次条並びに附則第三 条、

(その他の経過措置の政令への委任)

第五十九条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置は、 政令で定

附 則 (平成一一年一二月三日法律第一四六号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、 (政令への委任) 公布の日から施行する。

第十五条 措置は、 附則第二条から前条までに定めるもののほか、 政令で定める。 この法律の施行に関して必要となる経過

則 (平成一一年一二月二二日法律第一六〇号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律(第二条及び第三条を除く。)は、平成十三年一月六日から施行する。 ただし、

次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。 法律附則の改正規定に係る部分に限る。)、第千三百五条、第千三百六条、 第九百九十五条(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する 第千三百二十四条第

(平成一二年四月一九日法律第四三号) 抄

二項、第千三百二十六条第二項及び第千三百四十四条の規定

公布の日

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から 正規定(同条第一項中「、経営の診断を担当する者の資格」を削る部分並 の診断等の業務に従事する者の登録の制度を設けること等」に改める部分に限る。)、第六条の改行する。ただし、第一条の改正規定(「推進すること」を「推進するとともに、中小企業の経営 三項を削る部分に限る。)、本則に六条を加える改正規定及び次条の規定は、 て一年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。 びに同条第二項及び第 公布の日から起算し

の規定による登録簿は、改正後の中小企業支援法(以下「新法」という。) 第十一条第一項の規第二条 この法律による改正前の中小企業指導法(次項において「旧法」という。) 第六条第二項 定による登録簿とみなす 規定による登録簿は、改正後の中小企業支援法

第三条 政府は、この法律の施行後五年を目途として、新法第十一条から第十三条までの規定の施 基づいて必要な措置を講ずるものとする。 の状況を勘案し、 必要があると認めるときは、これらの規定について検討を加え、その結果に

(施行期日) 則 (平成一四年一二月一一日法律第一四六号) 抄

第一条 この法律は、 ら施行する。 独立行政法人中小企業基盤整備機構(以下「機構」という。)の成立の時か

(施行期日) (平成一五年五月九日法律第三七号) 抄

第一条 この法律は、平成十五年十月一日から施行する。 (平成一六年四月二一日法律第三五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日又は時から施行する。 から第七条まで、第十一条、第二十二条及び第三十条の規定(公布の日)四年法律第百四十六号)附則第九条から第十八条までの改正規定を除く。)並びに附則第三条 第二条、次条(中小企業総合事業団法及び機械類信用保険法の廃止等に関する法律(平成十

則 (平成一七年七月二六日法律第八七号) 抄

この法律は、会社法の施行の日から施行する。

(平成一八年六月二日法律第五〇号) 抄

この法律は、一般社団・財団法人法の施行の日から施行する。

則 (平成二三年五月二日法律第三七号) 抄

(施行期日)

る日から施行する。 一条 この法律は、 公布の日から施行する。ただし、 次の各号に掲げる規定は、当該各号に定め

十三条(次号に掲げる改正規定を除く。)、第三十七条及び第三十八条の規定並びに附則第八第七条、第二十二条、第二十五条、第二十七条、第二十八条、第三十条、第三十一条、第三 公布の日から起算して三月を経過した日 第十条、第十一条、第十三条、第十九条、 第二十五条、第三十三条及び第四十一条の規

(中小企業支援法の一部改正に伴う経過措置)

おいて「旧支援法」という。) 第三条第三項の規定により通知された同条第一項の計画に基づく第十一条 第二十八条の規定の施行前に同条の規定による改正前の中小企業支援法(以下この条に 旧支援法第四条第一項の計画の作成及び届出については、なお従前の例による。

二十八条の規定による改正後の中小企業支援法第四条第一項の規定による届出があった計画とみ 条の規定の施行後に前項の規定に基づきなお従前の例により届出があった計画を含む。)は、第 第二十八条の規定の施行前に旧支援法第四条第一項の規定による届出があった計画(第二十八

(罰則に関する経過措置)

(政令への委任)

第二十三条 この法律(附則第一条各号に掲げる規定にあっては、 に対する罰則の適用については、 なお従前の例による。 当該規定)の施行前にした行為

附則第二条から前条まで及び附則第三十六条に規定するもののほか、

この法律の施行

に関し必要な経過措置は、政令で定める 則 (平成二三年六月二四日法律第七四号) 抄

(施行期日)

第

4

この法律は、 公布の日から起算して二十日を経過した日から施行する。

附 則 (平成二五年五月三一日法律第二五号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して一年三月を超えない範囲内において政令で定める日 ら施行する。ただし、第二条並びに附則第三条から第五条まで、第九条、第十一条(独立行政法 人新エネルギー・産業技術総合開発機構法(平成十四年法律第百四十五号)附則第十二条から第 十六条までの改正規定に限る。)及び第十二条の規定は、 公布の日から施行する。

(平成二五年六月二一日法律第五七号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施 行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

附則第五条の規定 公布の日

三十一日 条、第九条、第十二条、第十三条及び第十七条から第二十五条までの規定 第三条(中小企業支援法第九条の改正規定に限る。)、第九条、次条並びに附則第三条、 平成二十七年三月 第八

(中小企業支援法の一部改正に伴う経過措置)

第二条 第三条の規定による改正前の中小企業支援法第九条の規定の適用を受けた同法第七条 額又は拠出された金額に係る要件については、なお従前の例による。項の指定法人であって次条第二項に規定する旧貸与機関の地位を兼ねるものにおけるその出資金

(罰則に関する経過措置)

じ。)の施行前にした行為及びこの附則の規定によりなお従前の例によることとされる場合にお第四条 この法律(附則第一条第二号に掲げる規定にあっては、当該規定。以下この条において同 けるこの法律の施行後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

(政令への委任)

第五条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関して必要となる経過措置は、 定める。 政令で

(検討)

第六条 政府は、この法律の施行後五年を目途として、この法律による改正後の規定の実施状況を 措置を講ずるものとする。 勘案し、必要があると認めるときは、当該規定について検討を加え、 その結果に基づいて所要の

附 則 (平成二五年一二月一一日法律第九八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施 行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

附則第二十八条及び第三十九条の規定 公布の日

附 則 (平成三〇年七月四日法律第六九号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、平成二十八年十月十五日に採択されたオゾン層を破壊する物質に関するモン ずる日から施行する。 - リオール議定書(附則第三条において「議定書」という。) の改正が日本国について効力を生

(令和四年六月一七日法律第六八号) 抄

1 各号に定める日から施行する。 この法律は、刑法等一部改正法施行日から施行する。ただし、 次の各号に掲げる規定は、 当該

第五百九条の規定 公布の日